

マダニが媒介する新しい感染症 SFTS (重症熱性血小板減少症候群)



タカサゴキララマダニ

早期発見、早期治療が大切！！

問1: SFTSってどんな病気？

2011年に初めて特定されたSFTSウイルスに感染する事で起こる病気で、6日～2週間の潜伏期を経て、**発熱、消化器症状**(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)で発症します。重症化すれば、死亡することもあります。

問2: どのように感染するの？

SFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染します。マダニの中でも、ウイルスを保有しているマダニは極めてまれですが、発病すると重症化することもあるので十分気をつけましょう。この病気を媒介するマダニは、家ダニなどとは違う種類で、10mmほどの主に野山に生息しているマダニです。

問3: どのように予防すればいいの？

マダニに咬まれないことが重要です。草むらや山など、ダニが生息する場所に行く場合には、**長袖・長ズボン・長靴、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出をできるだけ少なくする**ことが大切です。虫除けスプレーも一定の忌避効果が得られます。ペットなどの身近な動物にも気をつけましょう。
屋外活動後は入浴し、マダニが付着していないか注意深く全身チェックしましょう。

問4: もしマダニに咬まれたらどうしたらいいの？

マダニ類の多くは、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、数日間吸血します。無理に引き抜こうとすると、口器の一部が皮内に残ってしまうことがあるので、医療機関で処置してもらってください。**咬まれた後1～2週間は、発熱、嘔気、下痢などに注意しつつ、朝夕に体温を測り、裏面の体温表に記入し、熱が出たら直ぐに医療機関を受診**しましょう。

徳島県医学・感染症専門員 馬原 文彦先生監修

徳島県保健福祉部 感染症対策課

ダニに咬まれたら1週間くらい朝夕に熱を測りましょう

ダニに刺された		姓名												体重		kg
月	日	第 日		第 日		第 日		第 日		第 日		第 日		第 日	第 日	
		朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	
体温																
40																
39																
38																
37																
36																
35																

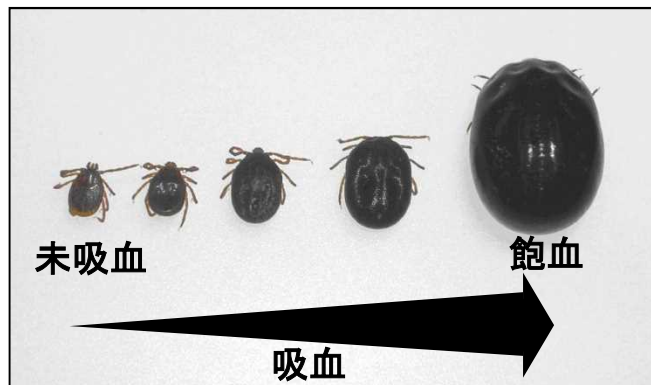
ヒトを刺咬しているマダニ



腕を刺咬するマダニ



拡大写真:タカサゴキラマダニ



吸血すると3~15ミリ位に膨れる

(写真提供:馬原アカリ医学研究所)

1. マダニの生息場所



マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。



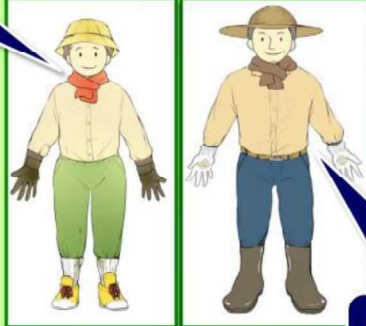
2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

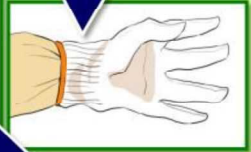
首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。



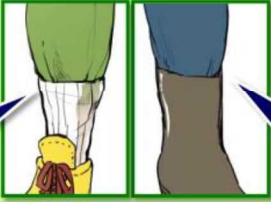
半ズボンやサンダル履きは不適當です！



シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。



シャツの裾はズボンの中に入れてみましょう。



ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。

農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れてみましょう。

3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、
家の中に持ち込まない
ようにしましょう。



屋外活動後は、
シャワーや入浴で、
ダニが付いていないか
チェックしましょう。



ガムテープ
を使って服に
付いたダニを
取り除く方法
も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

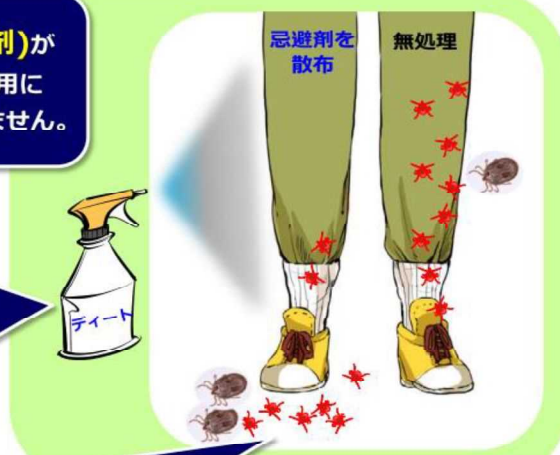
マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

4. 忌避剤の効果

海外ではマダニ対策に**忌避剤(虫よけ剤)**が使用されていますが、日本には、マダニ用に市販されている忌避剤は今のところありません。

日本では、ツツガムシ（ダニ目ツツガムシ科）を忌避する用途で、衣服に塗布して使用する忌避剤（医薬品）が複数市販されています。

このような忌避剤を使用し、マダニに対して**一定の忌避効果が得られることが確認されました。**



ディート（忌避剤）の使用でマダニ付着数は減少しますが、マダニを完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。